

ビンディン省の木材加工業の現況(1)

ベトナムの中南部に位置するビンディン省では、省都クイニョンを中心にして木材加工業が盛んであり、現況及び日本産木材にかかる概要は以下のとおりである。

- ・ ビンディンは、ベトナムの3主要な輸出木材加工センターの一つであり、アウトドア用木製品分野で国のトップにある。
- ・ 原材料は主に輸入ユーカリ・グランディス、ユーカリ・カマレレ、チーク、アカシア、グメリア等で、FSCやTFT認証を受け、持続的に管理された森林からの伐採木材である。残りは国内のアカシア、ユーカリ、天然林材であるが、これらは直径が小さいため、あまり利用されていない状況にある。
- ・ 日本産木材を輸入している企業もある。将来、販路拡大や設備更新の際に、日本産木材を輸入する企業も出てくるかもしれない。

ビンディン省では、ビンディン林産物協会（FPA Binh Dinh）が木材加工業のとりまとめ団体として著名である。当協会は、ビンディン省人民委員会決議3413/QD-UBND（1999.9.24付）に基づき28人の会員をもって設立され、現在会員数は140人で、うち105人以上が木材加工の生産に従事している。

2000年から2022年までの間に、協会の輸出額は9億5千万ドル（このうちペレットと木材チップは約3億ドル）に達したとみられている。

ビンディン省には12万ha以上の植林地があり、産業に持続可能な資源を生み出している。さらに、ベトナムを始めブラジル、コスタリカ、ウルグアイ、ガーナ、南アフリカ、マレーシアからの合法かつ持続可能な植林地から収穫された認証木材の供給に60以上の木材供給会社が参加している。

協会は、木材とアルミニウム、繊維プラスチック、石材の組み合わせなど、さまざまな製品ラインを提供している。FSC/PEFC認証を取得し、貴重なチーク材から、ユーカリ、アカシアなどの一般的な樹種まで、適切に管理された持続可能な森林からの伐採木材を使用している。

ビンディン省には現在、150社以上の企業が5,000人の労働者を擁して輸出用の木材加工を行っており、生産能力は年間40フィートコンテナ25,000個に達する。協会は、専門的な管理システム（ISO 9001、FSC CoC、PEF CoC、BSCI、SMETA、BRC、CTPAT、行動規範等）を擁するとともに、一般的な市場動向に適した多様な設計、最高の品質、納期厳守、競争力のある価格、顧客との協力と開発のビジネスを実施し、生産される製品は、メトロ、カルフル、キングフィッシャー、キャストラマ、A.R.E.N.A、OBI、ウォルマート、ホームベース、IKEAなどの企業を顧客として、世界のほとんどの主要市場に出荷している。

一方で、世界的な経済危機、国際市場の需要の減少、非関税障壁の増大により、農林水産物、特に木材加工産業の貿易活動の発展に新たなアプローチが必要であり、また、ロシアとウクライナの戦争も世界市場と顧客に大きな影響を与えている。高度成長期を経て、輸出は少数の基幹産業の広範な発展に依存する時代が到来しており、持続可能な農林産物の輸出戦略が求められている。

ワールドウッドトレンド

その中で、木材産業は、基盤がしっかりしており、新たな要素を刺激して堅固に立脚しているといえる。それは、長期的構想に従い国内市場をうまく開拓し、基本的には将来の輸出の基礎と出発点として機能することであり、統合・競争の準備ができており、ベトナムブランドを世界に広げられよう。

協会にかかる事業は、今のところアウトドア用家具の製造と輸出に関するもののみであり、顧客は主に欧米である。まだ日本産材は使っていないが、将来的に消費市場の拡大や製品生産の技術革新を行う際には、日本の木材を輸入することにもなるであろう。